

断酒 みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
 事務局 呉市押込 5-12-25
 渡部 憲方
 郵便番号 737-0915
 電話 33-5571
 発行人 渡部 憲
 編集代表 石橋 剛
 印刷 松広印刷



呉みどり断酒会『創立 44 周年記念例会』会場にて



昭和42年 その時 私は

会長 渡部 憲

「45周年に向かつて、もつと強くもつと賢く、もつと...」。創立44周年記念例会の連鎖握手。当会の育ての親、呉みどりヶ丘病院院長長尾澄雄先生と先輩に挟まれ、その手の温もりに何か込み上げてくるものがあつた。と同時に、この盛り上がり、この伝統を継承していく事の責務の重さも痛感した。

昭和42年、その年に呉みどり断酒会は誕生した。我が家の仏壇の中には、亡き父の52才当時の笑顔の遺影がある。その写真は、まさに昭和42年、私が海上自衛隊の江田島の学校を優等生で卒業した時、島根の田舎から一張羅の古びた背広を着て、喜び勇んで出かけてくれた時の記念写真である。職業軍人だった父は、「自衛隊も軍隊も同じ。あそこは努力さえすれば、いくらでも出世できるところだ。」と、私の入隊をとても喜んで賛成してくれた父だけに、この卒業式参列は、どんなに嬉しかったことか。

その父は、難病を患い、その後

私が酒や借金の蟻地獄に埋もれていくのを殆ど知らずに70才の若さで他界した。ほぼ同じ頃に、私は奇蹟的にも断酒会に救ってもらった。

例会で言った。「父は、私がアル中になつた事を知らずに死んでいった。」と。先輩が言い返した。「いや違う!!お父さんは全部知っていたと思う。そして、今でも貴方の事をすべて見張っておられると思うよ。」と。

笑顔の写真を眺めながら思った。軍隊仕込みの父には、子供時代、「言つて解らん奴は、解るようにしてやる!!」と、竹ボウキ、火吹き竹などで叩かれた。何ひとつ、父の教え、期待に沿えなかつた私だが、このスパルタ教育だけは忠実に守り、二人の可愛い子供を酒を飲んでよく叩いた。今、写真の中から父が飛び出してきただろう言うかな?青タン、赤タンになるまで叩いた後で、「よう立ち直つたなあ」と、頭をなでてくれるかな?

創立44周年記念例会

体験発表



中村 里美
(アメシスト)

いつもお世話になってます。呉みどり断酒会の中村里美です。呉みどり断酒会創立四十四周年記念例会おめでとうございます。

体験発表のお話を頂いた時、私のような者でいいのだろうか、とても不安でした。このような機会を頂き有り難うございます。

私は、口下手で人の前で話す事、ましてや大勢の皆さんの前で発表する事はとても苦手だし、緊張して今もここで立っているのがやっとなです。お聞き苦しい発表になると思いますが、聞いて頂ければと思います。

私は、とても人見知りなのですが、ちよつと慣れるとお調子者です。平成四年社会人となり就職しました。飲酒といえば、もちろん二十才過ぎてからですが、父が晩酌をする時に「ひと口頂だい」というのが始まりでした。

それからは、忘年会・新年会、友人と年に何度か飲む機会がありました。お酒は好きでした。性格から、皆におだてられると調子に乗って飲み過ぎた事もありました。これが、後の結果になったと思います。

平成十一年十二月に結婚しました。主人の両親とは別居でしたが、すぐ近くに住んでいました。私は、何をしても不器用な為、主人の両親の思いどおりにならず、段段と折り合いが悪くなる一方でした。主人に相談しても相談には乗ってくれず、暴力は振るわないのですが、物を壊したり、大きな声で怒鳴ったりして、怖くて愚痴も言えませんでした。主人は、自分の両親なのに何一つ話し合う事もできない人でした。平成十二年十二月に長男が生まれ、十六年一月に二男が生まれました。主人の母は、以前にも増して、嫌味・つらみがひどくなってきました。辛い事・悔しい事は多々ありましたが、二人の子供を見ていると、可

愛いのと忙しきで頑張る事が出来ました。

辛い事、悔しい事、苦しい事等、最初は私の両親には言わずにいたのですが、私の様子から両親は察したのか、色々と相談にも乗ってくれていました。勿論、私への注意もしてくれましたが、私はそれでもどうにもならず、それまでは晩酌を時々する程度だったので、少しずつ増えていったように思います。

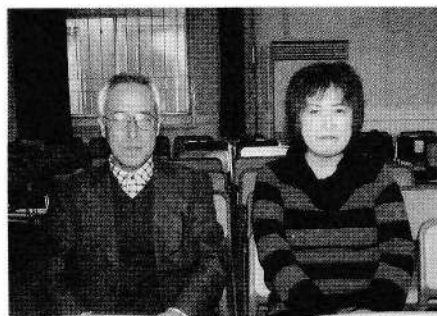
平成十九年四月からは、長男が小学校に入学、二男は幼稚園に入学しました。主人と主人の母の二人の話し合いで私には内緒で、私のアルバイト先を決めて働く事になりました。忙しくてもピカピカ



の一年生と幼稚園児で毎日楽しく過していました。忙しさに毎日追いかけて寝不足、特に主人の両親とのストレスからか、気持ち・体が思うようにならず、ちよつとお酒を飲むと気持ちが楽になり、体も軽くなるような気がして、少しづつお酒の量が増えていきました。それから、間なしに主人から何の話もなく、私は実家に帰らざるをえなくなりました。二人の子供は、主人の所です。子供には全く会わせてもらえません。

二人の子供もどんな気持ちだろうと気にもなりましたが、やっばり子供に会いたい気持ちが募るばかりでした。会わせてもらえない事のやり切れなさで、またお酒を口にするようになりました。このまま、仕事もせずに悩んでいてもいけないと思い、パートに出ることにしました。仕事をすれば、少しは気がまぎれて気持ちも楽になるかもしれないと思いましたが、我が子と同じ位の子供を見たり、周りの人から子供の話・孫の話等を聞くと増々やり切れなく、寂しく、仕事から帰宅途中に、そして、帰宅してから飲むようになりました。

母からは、玄関を入るなり「飲むんなら、家で飲みなさい」「今日も飲んだるねえ」「また、飲んでるじゃない」と、度々言われるようになりました。私の気がまぎれるようにと妹や両親が、休みの日には広島とか呉市内等に買い物に連れ出してくれました。ここでもやっぱり、両親、妹の目を盗み、トイレでワンカップの焼酎を飲んでいました。やっぱり、両親、妹にはすぐ気付かれます。でも「飲んでないよ」「飲むわけないじゃん」等と言ってましたが、足はふらつき、帰るなり大の字になってグーグー寝る始末。お酒の臭いでプリンです。幾ら「飲んでない!!」と言い張っても、両親や妹が気付かないはずはありません。でも、その時は（大丈夫。ごまかせる!!）と思っていました。妹は広島に居たのですが、忙しい時間をやり繰りして、週に一・二度スイミングに誘ってくれたりしていました。皆に心配をかけていたので、酒を止めなければと思いました。特に子供の事を思う時、こんな事では子供を引き取る事は出来ない。（止めなければ、止めなければ!!）と思っていました。両親



一緒に例会出席してくれる父と

からも度々言われていました。そのうち、パート先で迷惑をかけてしまいました。仕事場にも居辛くなり、辞めざるを得なくなりました。以前から、お年寄りの方の介護の仕事をしたいと思っていましたので、パートを辞めて介護の学校に行き、二級の資格を取り介護の仕事を始めました。パートを辞めて学校に行き、次の仕事に就いてからの何ヶ月間は、一生懸命でお酒を飲まずに済んでいたのですが、子供の事に加え職場での人間関係で悩むようになり、また少しずつ飲むようになりました。人間関係と言っても、今思えば大したことではありませんでした。

それからの飲み方は、どんどんエスカレートして行きました。念願の仕事にも就けず、見付からなければ大丈夫と思っていたし、仕事さえ、ちゃんとすれば誰も文句は言わないとも思っていました。帰宅途中で焼酎のワンカップを五・六本買って帰って隠れて飲む。ガムやお菓子等でごまかす。私は、どうにもならなくなつて居たのです。電車で帰れば、待ち時間に飲んで乗り過ぎたり、電車から降りると同時にベンチに潰れて眠ったり、道路で潰れて通り掛かりの人が警察に通報してくれてお巡りさんに家まで連れて帰つて貰った事もありました。こんな事があつても、両親には「飲んでない」と言い張つて、病院へ行く事も拒んでいました。

今週の金曜日まで我慢するから」等々と言つてました。入院してから九ヶ月、入院中に色々な病気が出て、昨年四月に広島県立病院に入院する事になりました。長尾先生、佐々木先生、五病棟の看護師さん、県病院の先生方や看護師さん、本当にやさしくして下さいました。去年の五月には妹が結婚しました。妹は言いませんが、私の為に延ばし延ばしにしてくれていたのかも知れません。相手の人も何度かみどりヶ丘病院へ、そして県病院にも見舞いに来て下さいました。妹は「お姉ちゃんが出席できないのなら、披露宴はしなくていい」とまで言ってくれたそうです。病状も少しずつ良くなり、入院中でしたが結婚式に行ける許可をもらいました。妹は準備の段階で、私が出席出来るものとして、料理は私の分だけ全てアルコール抜きでお願いしてくれたり、色々と私の心配も大変だつたと思います。妹は九州なので、以前のようにチョコチョコは会えませんが、月に一・二度は家の事を思つてか帰つて来ます。子供の事は、色々思う事はあり



藤田 栄子
(家族)

ますが、お酒でどうにもならない時の事を思うと、今は一日一日が有り難くて善い日を過ごしています。どんなに辛い事があつたにしても、お酒は飲むべきではなかったし、これからどんな事に出くわすかも知れないけど、絶対に飲んではいけないと思っています。今は、一日も早く仕事に就きたい気持ちです。早くその日が来るように断酒会の会長さん、会員の皆さんに助けて頂きながら、一日一日断酒を頑張つて行こうと心に決めていきます。よろしくお願いします。

私には、九十三歳のお祖母ちゃん、山口で元気で過ごして居ます。生まれて今まで、私達を本当に可愛がつてくれるお祖母ちゃんです。時々、両親と会いに行っています。お祖母ちゃんも以前の私を見ているので、今はとても安心して来ています。お祖母ちゃんにも絶対心配かけてはいけな

いと思っています。最後に院長先生に、こんな私を救つて下さつて有り難うございました。そして、みどり会に導いて頂き、心から感謝しています。私の話を最後まで聞いて頂き、有り難うございました。

呉みどり断酒会創立四十四周年記念、おめでとう御座います。

併せて主人の断酒五年の年にもこの様な場を与えて頂き、本当に有り難うございます。省みれば主人の飲酒時、本当に家族全員が悩まされました。

子供が学生の頃は、酒は飲んでも仕事だけは行っていましたので子供が一人前になるまでは子供の為に我慢しよう、親の都合で子供に不自由な思いは意地でもさせたくないとの思いで喧嘩をしながらも離婚は致しませんでした。

その子供達が社会人となり、私にもう我慢はしなくていいよと言つた時、初めて子供の為ではなく自分の意地を通す為に主人との生活を続けていた事に気が付きました。どちらの道を選んでいても、

一番の犠牲者は子供達でした。定年後は「酒を飲みすぎる」「飲ませろ」の攻防もどうでも良くなり、好きなだけ飲んで早く死んでも自分の選んだ道、ただ外で醜態だけは迷惑なのでさらしてほしくな

い、と思いビールと酒を常に切らさない様に置くことにしました。家に置いた酒は、朝・昼・夜・夜中と水代わりに飲んでいました。が、それはそれ相変わらず外に出て自動販売機のハシゴをし、だらしない格好で外をうろつき、孫が遊んでいる公園では大きな声で孫を呼び、子供たちの家の周りをうろつき、体の調子が悪くなると酔っぱらつた状態で病院へ行き、とうとう病院から「もう、うちの病院へは来ないで下さい」と言われる始末でした。

主人の酒で私ばかりでなく、子供たちの家族までもが迷惑をこうむる状態となりました。娘の職場で「どこどこに気持ちの悪いおじさんがおつてね、酔っ払いだと思ふんよ」この様な話題になると、どうしようと思ひながらさり気なく、その場から離れた事もあつたと言つてました。

孫の運動会・発表会等々の時、常に酒の臭いをプンプンさせ、場所をわきまえない言動でとても恥ずかしい思いを致しました。ある時は孫を連れて風呂に行き、帰りに飲みすぎて道路の脇へ座り込み、小さかつた孫は、どうして良

いか途方に暮れていたのでしょうか。通りすがりの方が、連絡をして下さつて迎えに行つてみれば、風呂の道具はその辺にだらしなく散乱し、二・三人の方が怪訝そうに見ておられ、孫はとても不安そうに、表情をしていました。私は見た瞬間、頭に血が登り、自分でも不思議な程の力で主人を後ろの座席へ投げ入れ、その場を逃げるように離れました。後でよく考えれば「大丈夫ですか？」と声をかけて下さつた方、又、私に連絡をして下さつた方々へのお礼を言う事も、全く忘れていた自分に気が付き、今もって大変失礼な事をしたと、申し訳なく自分の行動に大変恥ずかしい思いを引きずっています。



このままの状態では、娘たちの家庭までおかしくなると思い病院に入れる話をした所、いくつかの病院を調べてくれました。私の仕事もあり、年寄りも居ます。あまり主人の病院が遠くても不便と思いい、みどりヶ丘病院を選びました。子供からは「こんな近くの病院を選ばなくても」との意見がありました。私が結局私の都合を聞いてくれ、当院へ入院させて戴きました。娘も付いて来てくれましたが、その時の私は本当に情けなく惨めな気持ちでいっぱいでした。この人の為にどうしてこんな思いをしなくてはいけないのかと、主人を怨みました。入院中、院長先生に何度か断酒会へ出席する様、ご指導頂いたのですが、どうしても断酒会の雰囲気馴染めず、最初の一度しか出席致しませんでした。

退院の時、条件として断酒会出席とケアへの通所のご指導を頂き、仕方なく断酒会へ出席する事を決めたと言いますか、観念致しました。が、私の思いは、うちの主人はそれだけでなく人の話を聞くような人ではなく、我が道を行くと言った性格なのにこの会に出席しても、他の方は人の話を聞いて断酒が出来ても、うちの主人がそれにより断酒が出来るはずがないと、今に思えば、大変罰当たりな思い上がった考えでおりました。退院して、初めて主人と断酒会に出席させてもらった日に、先輩会員の方々に温かく受け入れて頂きました。その中に私が以前から知っていた宗政さん、それから主人がお酒を飲んでいた頃、広大川の方でよく話をし、知らない事とは言いながら「あんたも飲みんさいや」と言つて酒を勧めて断られていた松戸さん御夫妻が居られ、主人が松戸さんに「なんであんたがココに居るんかいね？」と言つたらしいのです。この偶然も私たち夫婦にとって、恵まれていたと



これでよかったと思える人生に…

思います。

松戸さんのご主人は、寒い日も暑い日も主人がケア通所する間、毎日通所の途中待っていて励まして下さいました。毎日出て待って戴いた為、主人も休みたたくても休めなくて通っていた日も多々あったと思います。本当に有難く、これからの私たちも他の方々に対して、お手本にさせて頂かなくてはと思っております。

初めは、退院時の条件として院長先生に言われたので仕方ない、と思いついて出席していた例会出席ですが、気が付いてみれば主人の断酒が今日まで続いておりました。

あれこれ頭で思うより、とにかく、素直に断酒会に出席し、断酒継続をされている方々のお顔を見て頂く事が大切な事だと思ひました。そして、人生最後の時、自分の身の丈に合せて観て、この人とこれで良かったと思える人生になればと思っております。

これからの断酒会を大切に主人と出席させて頂き、断酒継続に努力していきたいと思ひますので、どうぞ、宜しくお願い致します。有難うございました。



曾根 敏浩 (本人)

皆さんこんにちは。いつもお世話になっております。呉みどり断酒会の曾根敏浩です。よろしく、お願いします。

先ほどは、断酒継続七年の表彰をして頂き、ありがとうございます。心から感謝致します。

お酒が好きでした。毎日、毎晩飲み続けて、多い時には一升が二日ともたないし、自分でもよく飲むなと思うこともよくありました。会社を休むようになるなと思うのですが、飲みだすとなかなか止まりませんでした。

酒での失敗は二十数年間、幾度となく繰り返し返してきましたが、「酒が入っていたからしょうがないや」とか「どうせこんなことは、多かれ少なかれ誰でもしていること」とか「別に誰かを傷つけた訳でもないし、まあ、自分が多少恥ずかしい思いをすれば済むことで、大げさに言うことでもない」等、教え上げればきりが無いほどの言い訳で、いつも適当に片付けていました。それに、そもそも「酒



を飲んで何が悪い」と言う思いがありました。

このような繰り返し返りの中で転機が訪れたのが、十四年前に体験した、一度目の禁断症状「幻覚」「幻聴」でした。

私達夫婦は、私の仕事の関係でタイのバンコクで暮らしていました。今思い返してみても一番酒量の多い時期で、お酒なら一升、ウイスキーならボトル一本をほぼ毎晩のように飲み続けていました。一日中、体からアルコールが抜けきれることが殆どありませんでした。とにかく、異常な飲み方でした。

いつものようにベッドで寝てい

ると、それは突然起こったように思います。最初は目を閉じていると、この世の物とは思えない、おぞましい姿の「大きな虫の様でもあるし」「人の様でもあるし」、だが、詳細はよく分からない生き物が現れては自分を見据え、それに驚いて目を開けると消え、また目をつぶると現れる。この繰り返しで夢ではないことは何となく理解できたのですが、何が起きているのか、どうなっているのかは分かりませんでした。次第に、これは誰かが私の様子を見張っていると思うようになり、部屋のどこかに監視カメラが仕掛けられている、盗聴器もあるのではないかと必死で部屋中を手探りで探しました。勿論、何もありませんでした。

そうしていると、次は部屋の外か建物の外かよく分からないのですが、どこからとなく自分の名前を呼ぶ声が聞こえてきました。初めは怖くて自分の部屋の中で隠れるようにしてその声を聞いていました。次第にその声を捜すようになり、「いないはずの」「見えないはずの」人の姿を追いかけてマンションの中を走りまわっていました。それでも、見つけることが出

来ないと思えばマンションの周辺を駆けずりまわっていました。そして、拳銃の果てには、なかなか見つからないのは誰かが自分を外で監視していると思ひ込み、マンションの警備員や管理人まで無理やり連れ出し、なおも必死で捜していました。本当に何かに操られているかのように必死で無我夢中で探し回っていた事だけは鮮明に覚えています。

このような状態が何分、何時間続いたかは分かりませんが、覚えていることはその後、妻にささげられるようにしてタクシーで病院に行ったことです。タクシーの中でも後の車がつけていると思ひ込んでいました。病院に着いたら後ろからやられると真剣に考えていました。

病院に着いても、なかなか症状はおさまりませんでした。タイに居るはずもない両親が隣の部屋で話をしている声が聞こえてきて、その部屋に入ろうとしたこと。また、点滴中に隣のビルの屋上に友達がいる、私を呼んでいるのが見え、自分で点滴の針を抜いて腕からポタポタと血を流しながら病室から抜け出し、院内をうろついて

いました。更には、信じられないような事なのですが、人の姿を追いかけて八階の窓から出ようとしたそうです。最後には警備員に止められ注射で眠らされたそうです。この事は全く記憶にありませんでした。目が覚めてからは、病室のベットの上でかかってもない電話に出て話をしたりしていたそうですが、そもそも病室に電話があつたかどうか覚えていません。

結局、「幻覚・幻聴」が、私の頭から完全に消え去るには、何日もかかったように思います。私が覚えているのは、断片的なことでは、しかし、一部始終が分かったの



会長と…

は、妻が書き残していたメモを後で見た時でした。

突然の出来事を、傍らで全てを見ていた妻にとっては、私以上にショックでいたたまれない気持ちで一杯だったと思います。

私は少し体と頭の調子が元に戻ると、次に考えたことは「酒」を飲む事でしたし、時間が経つに連れ、その欲求は大きくなるばかりでした。どうやってお酒を手に入れようかと考えていた時でした。

主治医の先生が「気晴らしに少し外に出て見なさい」と言われ、まさに願ったり叶ったりで喜び勇んで行きつけのスーパーでポケットウイスキーを数本買いました。一本目はその場で周りの人の目など気にすることもなく一気に飲み干し、残りの一本はポケットに入れて病室まで持ち帰り、人のいない時を見計らってベットの上で平然と飲んでいました。罪悪感等全くありませんでした。

その後、二週間程度で退院しました。そのまま帰国することになりましたが、荷物の整理をするために一度マンションに帰りまして。私はどうしても、もう一度聞いてみたいことがあります、管理人さ

らに「幻覚」「幻聴」で見た人のことを聞きましたが、やはりこのマンションにはそのような人はいないと言われました。その時は、もしかしたらという気持ちがありました。聞違ひなく「幻覚」「幻聴」でした。

呉に帰ってからも、飲み方は少し変わりましたが、相変わらず「酒」「酒」の毎日には変わりはありませんでした。連続飲酒が始まると、時間も曜日の感覚もなく、飲み疲れ、気が付くと一週間が経っていたこともよくありました。

適当な理由を付けては、会社を休み、点滴で体調を良くしては、気まずい思いで会社に行くことの繰り返しでした。

状態は以前にも増して、悪くなったように思います。好き勝手に飲もうとする私と、何とかして飲ませないようにする妻との「戦い」の始まりでした。七年続きました。

「幻覚」「幻聴」の再発でみどりヶ丘病院に入院。退院。そして、呉みどり断酒会への入会となり、現在があります。

院長先生がよく所感でお話される、「人として」「社会人として」責任を持つて生活・仕事出来る

よう、努めて行きたいし、それを支えてくれる断酒会を大切にして行きます。何年も止めていらつやる先輩方の姿は、止めることが可能だと、希望を与えて下さっています。

断酒に真剣に取り組み、二度と同じ失敗を繰り返さぬように、これからも例会出席を続けて行きます。

以上で、私の体験発表を終わります。本日は、皆様の大変なお時間を頂き、大変ありがとうございました。



「創立44周年 バンザーイ…!!」

創立44周年記念 断酒表彰者

- ☆一年断酒 堂脇 正美
- 〃 〃 熊野 克幸
- 〃 〃 鍋山 秀一
- ☆三年断酒 諸岡 智代
- 〃 〃 村本 隆
- ☆五年断酒 春日世津子
- 〃 〃 渡辺 圭次
- ☆七年断酒 佐伯 忠
- 〃 〃 藤田 数夫
- 〃 〃 中司 仁博
- ☆十年断酒 曾根 敏浩
- ☆二十年断酒 西村 好登
- ☆二十五年断酒 森山 貞義
- ☆三十年断酒 大下 忠
- 宗政 貢
- 〇常任相談役(監査) 田中 正直
- 〇会長 渡部 憲
- 〇副会長兼事務局長 西村 好登
- 〇理事(編集・進行係) 石橋 剛
- 〇理事(会計・事務局) 曾根 敏浩
- 〇理事(行事) 佐伯 忠
- 〇理事 廣野 幸則
- 〇理事 堂脇 正美
- 〇理事 鍋山 秀一

〔平成二十三年年度 役員〕

寄付者御芳名

(十一月度)

呉 渡部 憲様 一〇,〇〇〇円
感謝箱 二,四〇八円

(十二月度)

呉みどりヶ丘病院 六〇,〇〇〇円
院長 長尾澄雄様
感謝箱 一四四円

(二月度)

呉 藤川芳文様 五,〇〇〇円

創立44周年記念御祝・御芳名

呉みどりヶ丘病院 院長 長尾澄雄様 一〇,〇〇〇円
山根文子様 五,〇〇〇円
田代時弘様 五,〇〇〇円
河崎千鶴様 三,〇〇〇円
佐藤正明様 三,〇〇〇円
住吉秀則様 三,〇〇〇円
嘉藤貴美子様 三,〇〇〇円
高野直美様 三,〇〇〇円
石川尚子様 三,〇〇〇円

新入会員紹介

●呉市阿賀北一―一五―三四 岩本 秀寛

●呉市清水一―一七―一九 河合 賢明

●呉市阿賀北一―一五―三四 吉川 幸江

●呉市阿賀北一―一七―一五 舛田 厚

●呉市阿賀北一―一五―三四 藤之原俊二

断酒継続おめでとう

☆一年 諸岡 智代 11月4日

☆二年 中島 和明 11月29日

☆三年 島本 辰馬 2月28日

☆三年 春日世津子 1月12日

行事予定

○4月3日

第46回中国断酒ブロック(倉敷)大会 併せ岡山県断酒新生会創立45周年記念大会 (倉敷市児島文化センター)

○5月14～16日

第67回松村断酒学校 (本山町プラチナセンター)

○5月21～22日

山口県断酒セミナー (山口県セミナーパーク)

平成22年11～12月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	社会会員	院内会員	77-セナ	合計
土曜例会	8	303	98	49	152	569	88	1,259
水曜例会	7	229	101		6			336
家族の集い	2		16					16
ブロック例会	2	27	17					44
懇談	2	4						4
特別院内例会	2	58	17					75
新会員を囲んで	2	22	10					32
第28回山口合同合宿	1	6	2					8
第15回ふくやま一泊研修会	1	9	4					13
第44回酒なし忘年感謝会	1	34	16					50
県連理事会	1	4						4
呉みどり断酒会役員会	2	11						11
合計		707	281	49	158	569	88	1,852

平成23年1～2月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	社会会員	院内会員	77-セナ	合計
土曜例会	7	272	94	47	134	479	95	1,121
水曜例会	8	278	107		6			391
家族の集い	2		19					19
ブロック例会	1	13	6					19
懇談	2	4						4
特別院内例会	2	44	20					64
新会員を囲んで	2	24	14					38
第34回愛媛県フナイトセミナー	1	8	3					11
呉みどり断酒会創立44周年記念例会	1	39	16					55
県連理事会	2	9						9
呉みどり断酒会役員会	2	11						11
合計		702	279	47	140	479	95	1,742

呉みどり断酒会

創立45周年記念大会

日時 平成24年2月5日(日) 10時～15時30分
場所 呉市民会館

○6月12日

第41回広島県断酒(庄原)大会 (庄原市民会館)

○7月16～17日

第10回鳥取県断酒会一泊研修会 (ホテル大山)

○7月10日

第46回四国断酒ブロック(徳島)大会 (鳴門市文化会館)

○8月26～28日

第41回山陰断酒学校 (松江市玉湯町公民館)